

タテヤマスギ遺伝資源希少個体群保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署
所在地	富山県立山町
面積	18.29ha
設定年	平成3年4月1日設定（平成29年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	ブナ坂国有林で原生林として群生を支配しているタテヤマスギの個体群の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてタテヤマスギの生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	現時点では保護対象種であるタテヤマスギは、多くの巨木も確認され良好な樹林となっていたが、枯損木の多くには主にクマ剥ぎの跡があり、残存するタテヤマスギもクマ剥ぎにより枯損する恐れがある。実際に枯損木や樹勢の弱ってきた樹木が確認され始めており、何らかの対策検討が必要である。また、ニホンジカの生息地域が拡大してきており、今後はこれらの生息状況の動向にも注意が必要である。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

愛本ウラジロガシ等希少個体群保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署
所在地	富山県黒部市
面積	2.51ha
設定年	平成3年4月1日設定（平成29年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	富山県内にウラジロガシ、ケヤキがまとまって生育している天然林が少ないことから、その個体群の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてウラジロガシやケヤキ大径木の生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	前回調査と同様に、保護対象種であるウラジロガシやケヤキの大径木が確認され、後継木も確認された。また、カシノナガクイムシやニホンジカ等による植生被害も確認されなかったことから、保護林の健全性が保たれていると考えられた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

薬師岳・雲ノ平圏谷群高山植物希少個体群保護林

管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署
所在地	富山県富山市
面積	250.19ha
設定年	平成3年4月1日設定（平成29年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	薬師岳の東側一帯には、氷河によってできた圏谷が並び、学術上の価値が高く、その特異な立地条件に特有の希少な高山植物が生育していることから、その個体群の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	登山道沿いを踏査し、保護林内の特異な地形や地質、植生の生育状況等を把握。
結果概要	ハイマツの先端部が茶色く変色して枯れた状態が薬師岳周辺で散見された。登山道及び急峻な地形における強度な雨量等による浸食、洗堀、崩落とともに、保護林内の高山植物やカール内の地形等への影響も懸念される。また、間接的に保護林内に生息する動物の変化への考慮も必要である。特にライチョウ等の生息環境の変化（ハイマツの生息状況を含め）には注意が必要である。今後も保護林モニタリングにより、状況変化を経過観察する必要がある。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

立山オオシラビソ希少個体群保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・富山森林管理署
所在地	富山県立山町
面積	75.40ha
設定年	平成3年4月1日設定（平成29年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	厳しい風雪地帯においてオオシラビソ（アオモリトドマツ）がまとまって生育している箇所は少ないため、この個体群の保護・管理を図る。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてオオシラビソの生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	保護対象種であるオオシラビソの成木に大きな変化は認められず、後継樹となりうる稚樹や小径木も確認されていることから、保護林の健全性は維持されていると考えられる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。

小里コウヤマキ希少個体群保護林	
管轄森林管理局・署	中部森林管理局・東濃森林管理署
所在地	岐阜県瑞浪市
面積	18.73ha
設定年	平成10年4月1日設定（平成30年4月1日変更）
保護林の概要 （設定目的）	岐阜県東部の東濃丘陵の一部である。地域的には周囲を山で囲まれているため、やや内陸性気候も帯びているが、太平洋側気候に属しており、比較的温暖多湿である。降水量は梅雨の季節に多く、本州上に梅雨前線が停滞した末期は集中豪雨となりやすい。また冬季の積雪量は少ない。保護林内の地質は花崗岩質岩石であり、土壌は砂土が露出する場所が多い。保護林上部はモチツツジ・アカマツ群集が成立し、下部はコナラ群落が成立している。コウヤマキの育成する標高が低く、分布限界に位置する。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和2年度
調査項目	森林詳細調査（樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査、病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）、その他の調査等（資料調査・聞き取り調査）
調査手法	森林詳細調査としてコウヤマキの生育地において調査プロットを2箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。
結果概要	保護対象種であるコウヤマキの成木に大きな変化は認められず、後継樹となりうる稚樹や小径木も確認されていることから、保護林の健全性は維持されていると考えられる。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。